



今から80年前、県内から

満州（現在の中国東北部）

に開拓団として移民した人

たちは、8月15日の終戦を

知らぬまま逃避行を続けて

いた。その中に「満蒙開拓

青少年義勇軍」として送り

出された少年たちもいた。

子どもたちを満州に送り出

したものは何か。そして彼

らは何を見たのか。義勇軍

の調査、研究を続ける元上

伊那教育会長の矢澤静二さ

ん(73)「伊那市西春近」と

当時を振り返ります。

皆さんは、伊那市伊那公園

に立つ「少年の塔」をご覧に

なれたことがありますか。こ

れから、この「少年の塔」に

かかる歴史と意味につい

て、皆さんと一緒に考えてい

きたいと思います。

満蒙開拓青少年義勇軍

満州に送り出された子どもたち



なぜ、青少年が満蒙開拓青少年
義勇軍として送り出される
ようになったのか

1



昭和17年の東春近国民学校義勇軍壮行会（伊那市東春近小学校所蔵）

昭和6年、満州事変が勃発し、翌年、日本の傀儡国家満州国が建国されました。同時

に満州開拓並びに対ソ戦兵力を補うものとして、兵役を終えた在郷軍人を主体として第1次武装移民が開始されました。そして、9年、在郷軍人よりもむしろ「純真な年少者」などが満州移民に適格であるとして、青少年武装移民も開始されました。

11年、「20ヶ年100万戸12年、満蒙開拓青少年義勇軍

（以下、義勇軍）が制度化され、13年から本格的に送り出されるようになりました。

義勇軍送出入数は、国が決定して都道府県に割り当て、都道府県は各市町村に割り当て、市町村は各小学校に送出を要請するという体制でした。義勇軍の対象者は、原則として「かぞえ16〜19歳、身体剛健

「理想の農村を建設」信じて



伊那市中央の伊那公園に立つ「少年の塔」